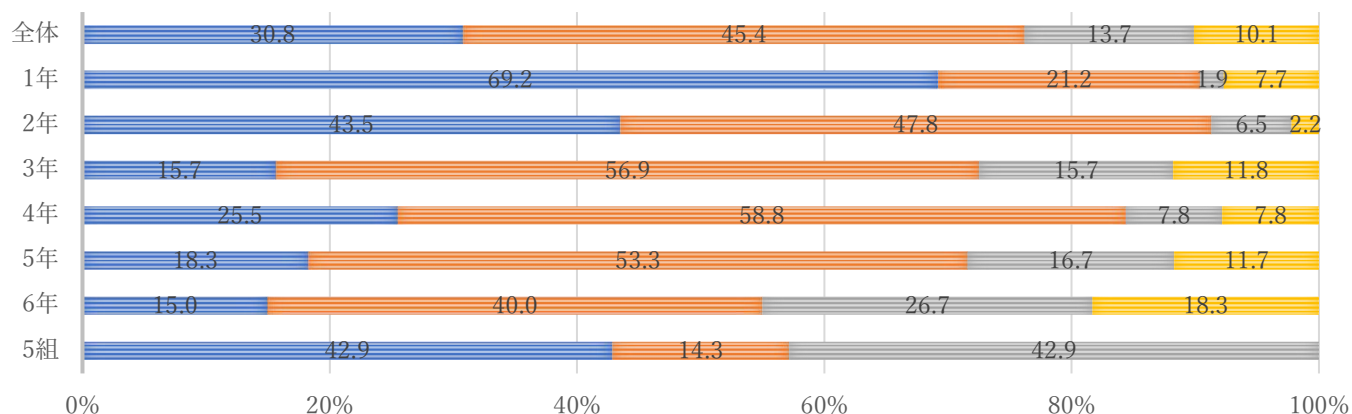




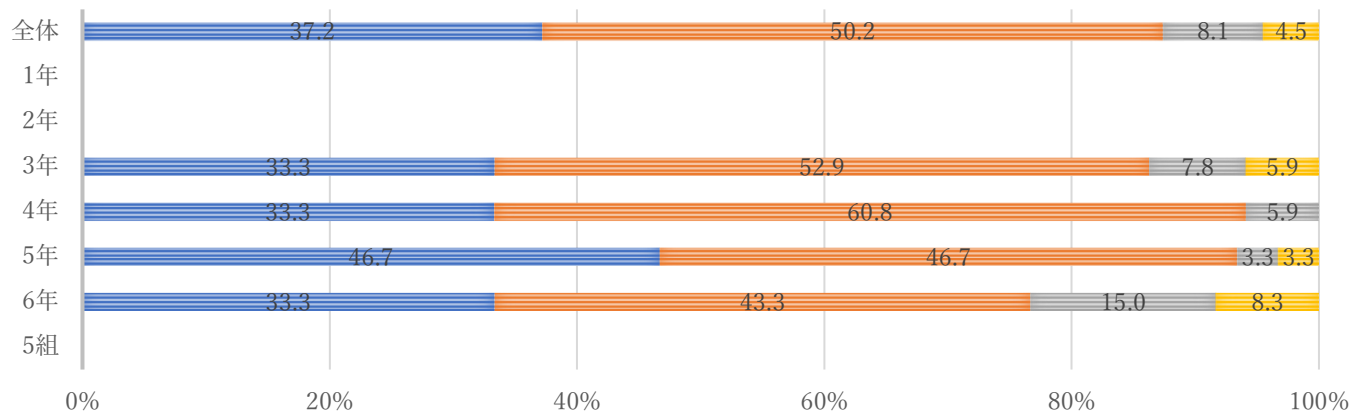
令和7年度 学校評価（児童）集計結果

1 国語の学習は好き/得意だ。



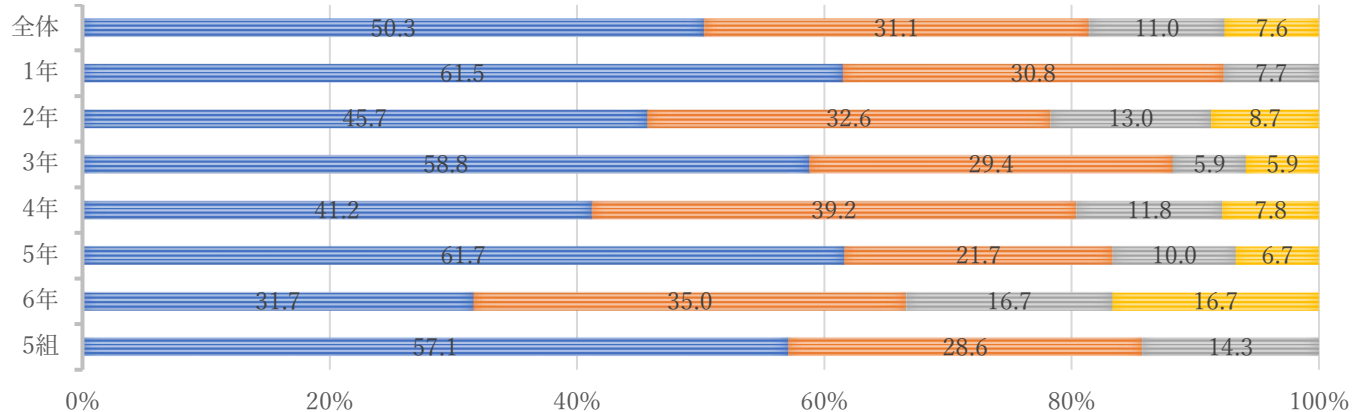
学年によって差はあるが、概ね80%前後が肯定的な回答をしている。高学年になるにつれ、肯定的回答が減少している傾向にあるが、主な理由として「漢字や文章を書くことが苦手/嫌い」、「文章の読み取りが苦手」といったものも多く見られた。学年の実態にに応じて、苦手意識が少しでも減らすことのできるような取組の検討・実施が必要である。

2 社会の学習は好き/得意だ。



肯定的回答が80~90%以上となっていることから、概ね良好な結果といえる。個やグループ等、様々な形で調べたりまとめたりする活動を行うことで、苦手な児童でも取り組みやすくなっていることが考えられる。しかし、一定数はグラフ等の読み取りや国名や人物名を覚えることに苦手意識が強いことが見られた。

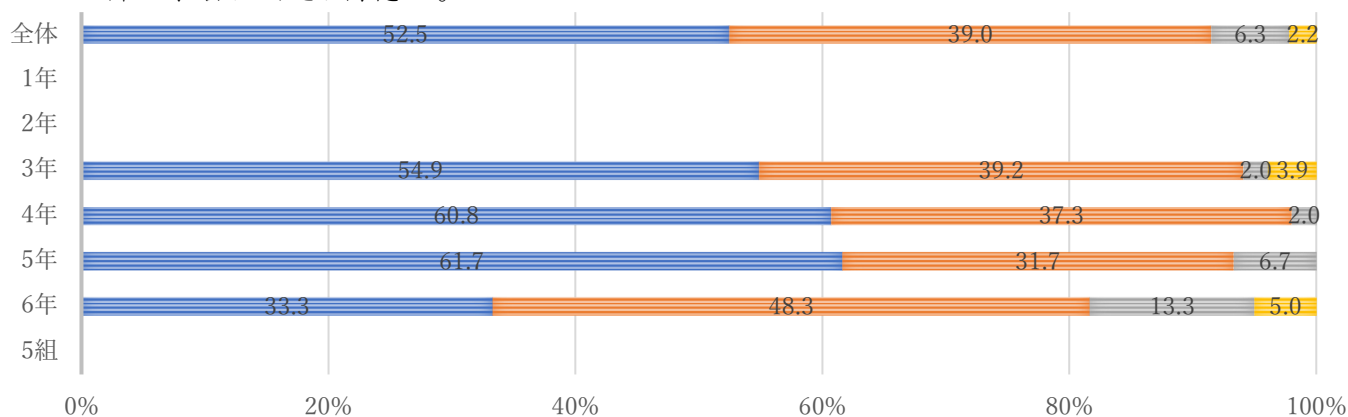
3 算数の学習は好き/得意だ。



昨年度と比較すると若干の増減はあるものの、全体的には肯定的回答の割合が高い結果である。否定的回答をした児童の多くは「計算が苦手/嫌い」と、理由を回答している。引き続き、実態に合わせた授業改善を行いながら、算数が好きと思えるような児童を育てていく。

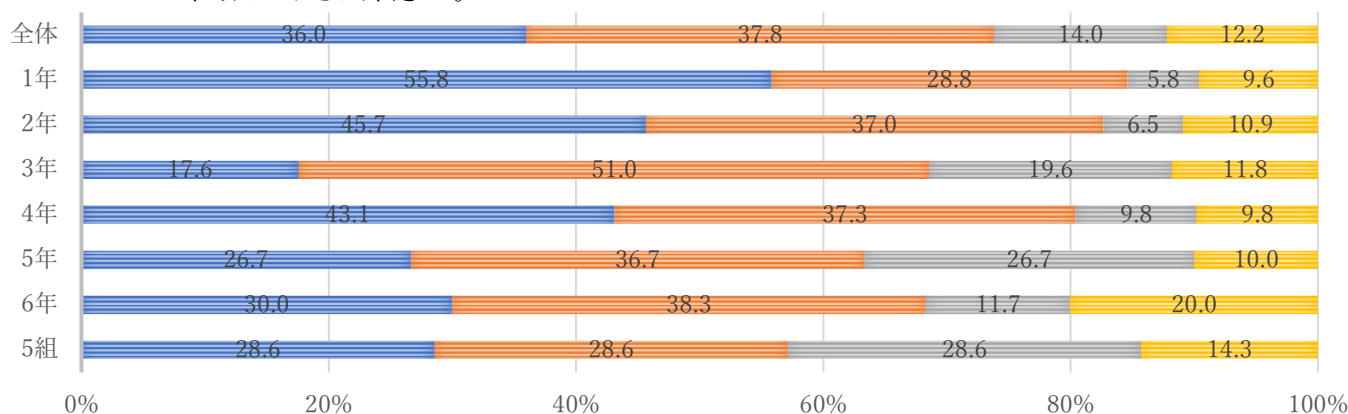


4 理科の学習は好き/得意だ。



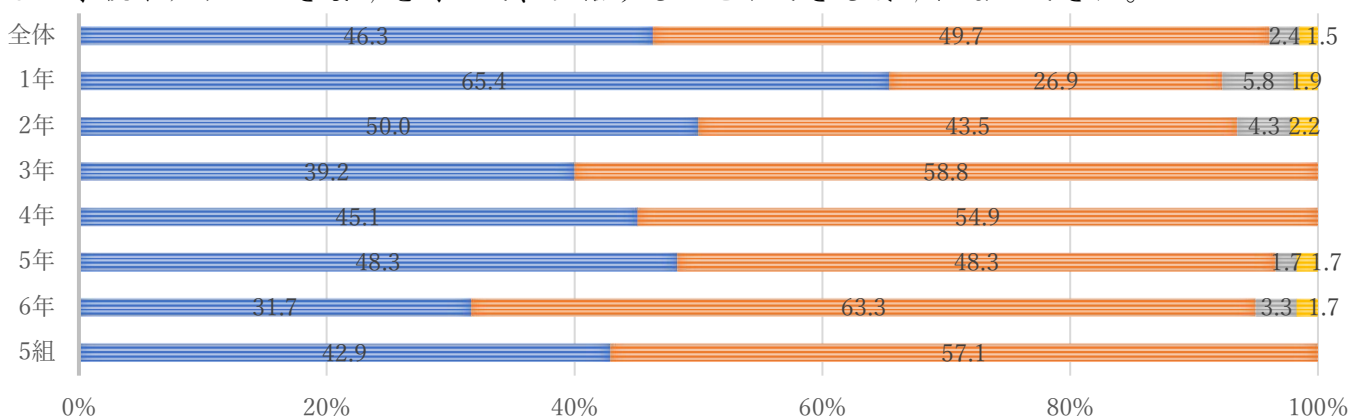
昨年度から引き続き、肯定的回答が最も多い結果となった。どの学年でも、肯定的回答が昨年度よりも増加している。一方で、「実験が苦手」や「結果から考察することが苦手」といった理由で否定的な回答をしている児童も一定数いる。他教科同様、苦手意識を少しでもなくせるようにしていくことが必要だと考えられる。

5 G・Sの学習は好き/得意だ。



肯定的回答が60～80%程度と、あまり好結果とは言えない状況である。英語を使っての活動を楽しんでいる児童がいる一方で、「英語（発話含む）が苦手/嫌い」といった理由で、否定的回答をしている児童が昨年度よりも増加している。他教科同様、児童の実態に合わせた授業展開・改善の工夫が必要である。

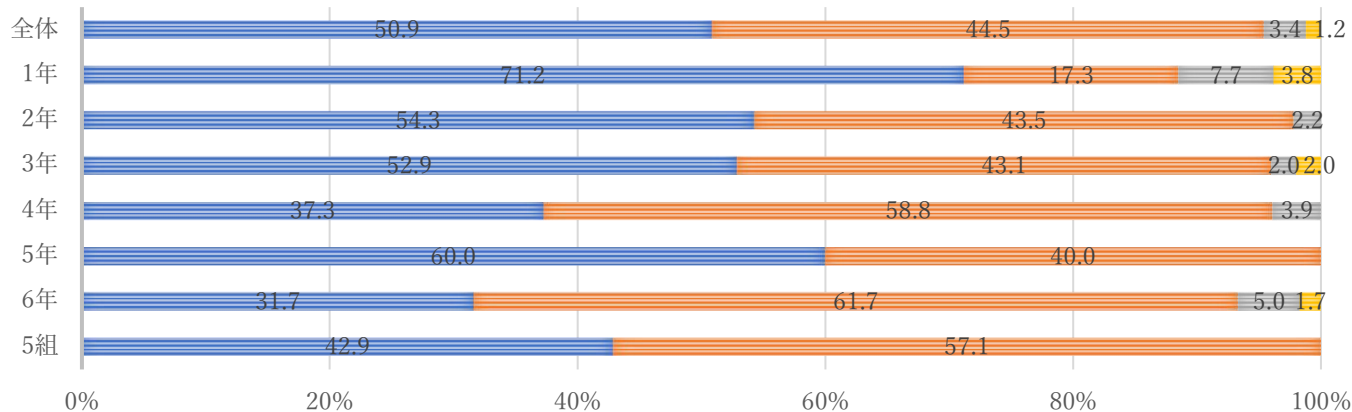
6 学校やクラスのきまりを守って、生活することができるようになってきた。



全学年、肯定的回答が90%以上となっている。児童はルールを守った生活を意識できていることがわかる。今後もルールを守ることの意義や重要性を確認しながら、指導を継続していく。

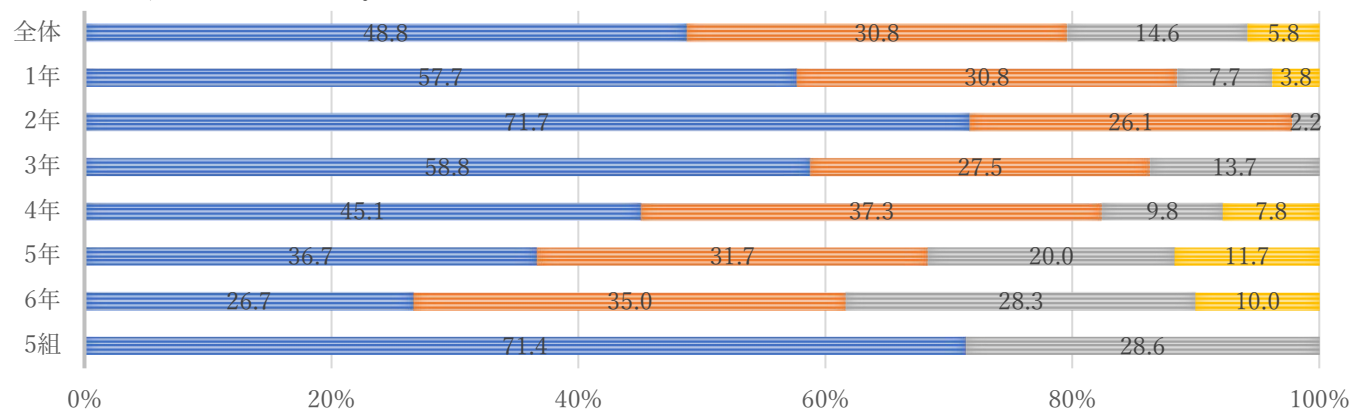
■ そう思う ■ だいたいそう思う ■ あまりそう思わない ■ 思わない

7 友達や先生、地域の方に進んであいさつすることができるようになってきた。



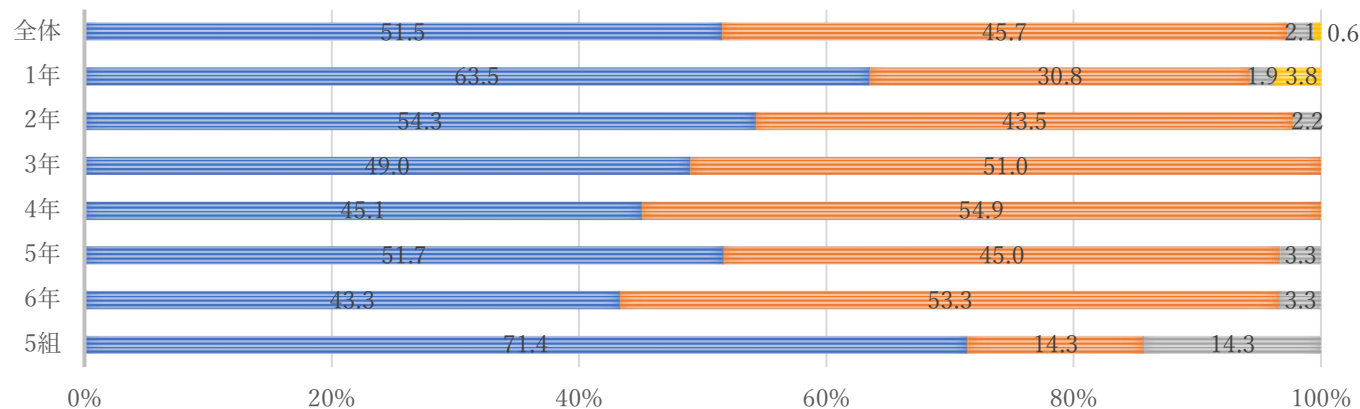
全体的に肯定的回答が90%と高い結果である。同様の質問に対して、保護者の結果も概ね80%以上となっていることから、あいさつをすることへの意識は高まっていると考えることができる。しかし、あいさつをすることの指導については今後も継続していく必要はある。

8 係や委員会等の仕事がある時以外は、休み時間に校庭に出て元気に遊んだり運動したりできるようになってきた。



4年生までは肯定的回答が80%以上と、大変に児童が外へ出て元気に活動していることがわかる。しかし、高学年では、30~40%近くの児童が否定的回答をしている。委員会等の活動もあり、なかなか外で出ることが難しいことも多いのかもしれないが、「運動や外遊びがそもそも好きではない」等の理由でいつも屋内で過ごしている児童も少なくはない状況である。

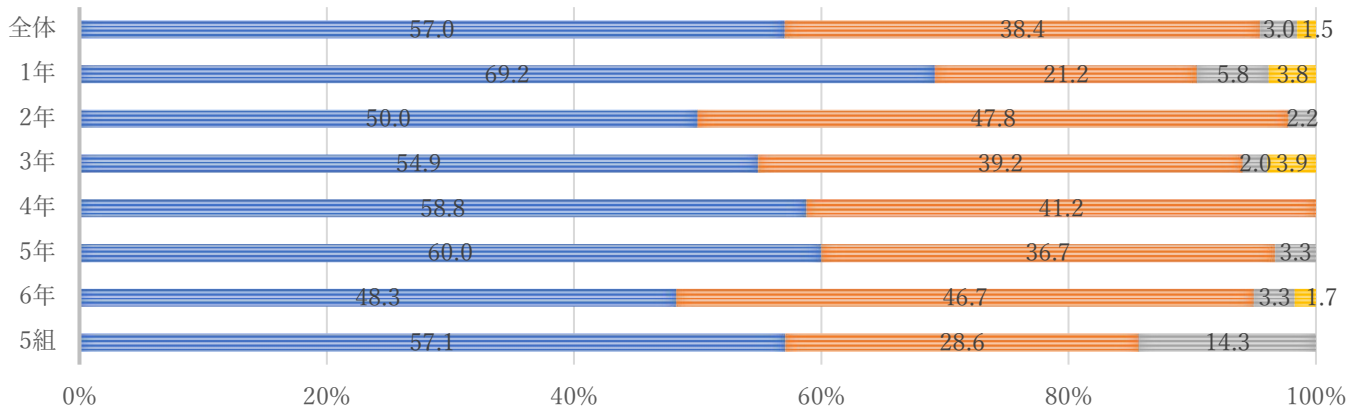
9 健康を意識して生活することができるようになってきた。



昨年度も100%に近い結果ではあったが、今年度は昨年度以上の結果となっている。日々の家庭や学校での声掛け等が、児童の意識にも行動にも表れてきていると考えることができる。否定的回答の意見の中には、「夜更かししている」や「好きな物ばかり食べてしまっている」といった意見があったことから、保健や食育と関連付けた指導をしていく。

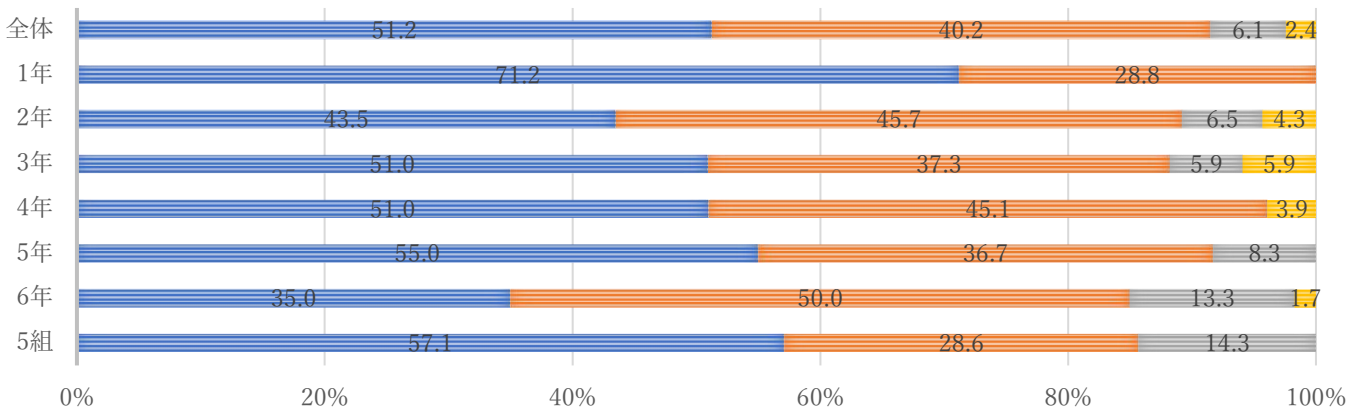
■ そう思う ■ だいたいそう思う ■ あまりそう思わない ■ 思わない

10 先生や友達の話をしっかり聞けるようになってきた。



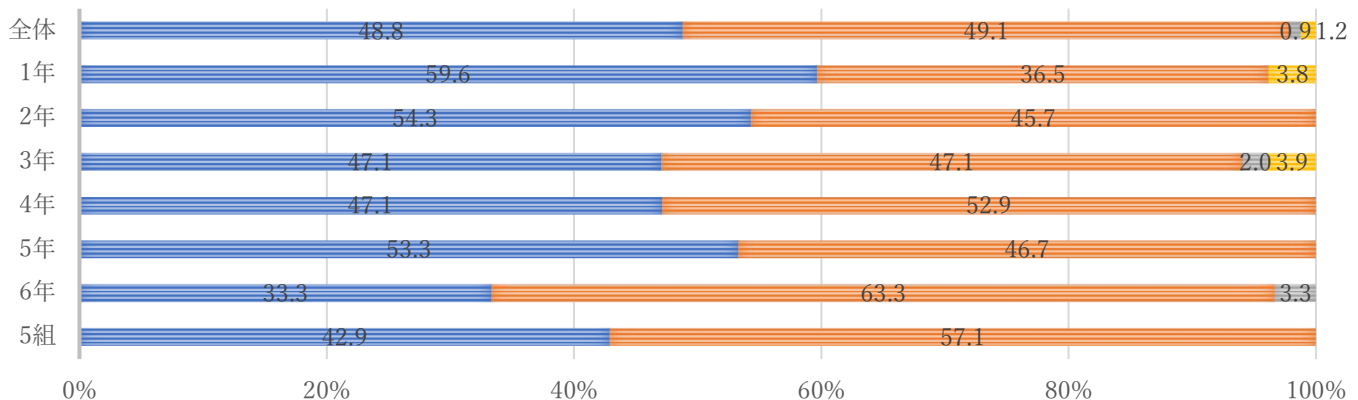
全体でも学年ごとでも肯定的回答がほぼ90%以上と高い結果である。昨年同様、「話を聞くことが苦手」といった理由で否定的回答をしている児童も若干見られた。全体的には話を聞こうとする意識は高い水準であるため、今後も児童の実態に合わせた話し方や指示の出し方を教員自身も工夫して実践していくようにする。

11 学校は楽しい。



全体的に肯定的回答が90%前後と高い結果である。トラブル等が全くないわけではないが、担任を中心に早期対応を心掛けたことで、児童の不安解消等を行ってきたことの結果だと考えられる。人間関係や学習面(勉強が難しい等)を理由に否定的回答をしている児童もいることから、継続して児童の小さな変化も見落とさずに、必要に応じて家庭との連携を確実にやっていくことが重要である。

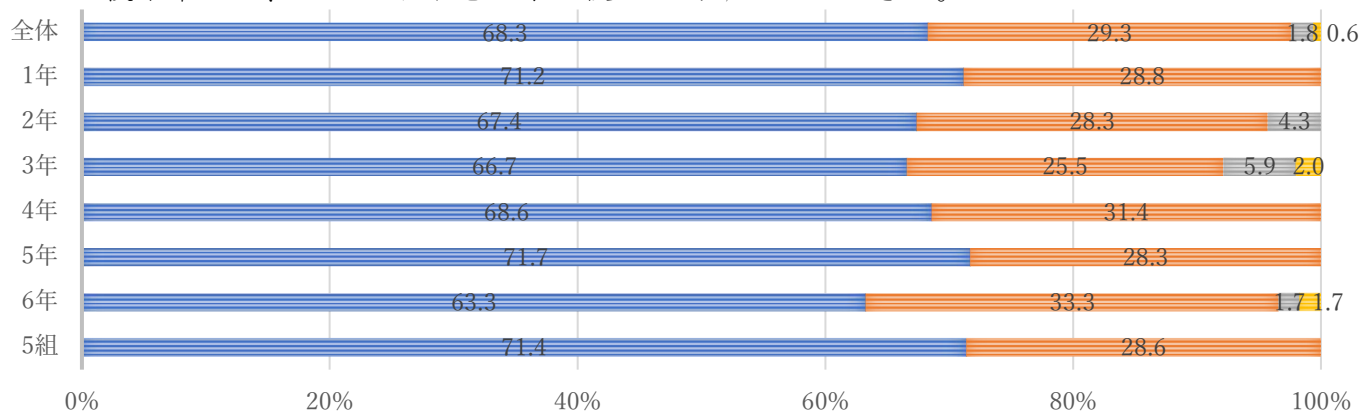
12 学校の授業はわかりやすい。



肯定的回答がほぼ95%以上と高い結果となり、昨年度同等の結果となった。児童の実態に合わせて授業改善や授業展開を教員が実践している結果だといえる。今後も、児童の実態に合わせた授業展開を行うとともに、継続した授業改善を行う必要がある。

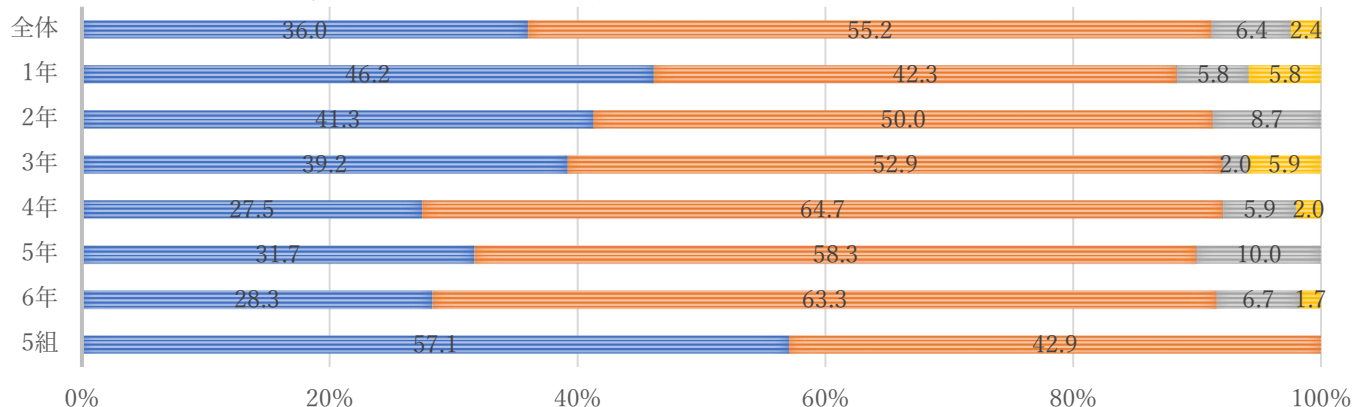


1 3 授業中など、タブレットを上手に使えるようになってきた。



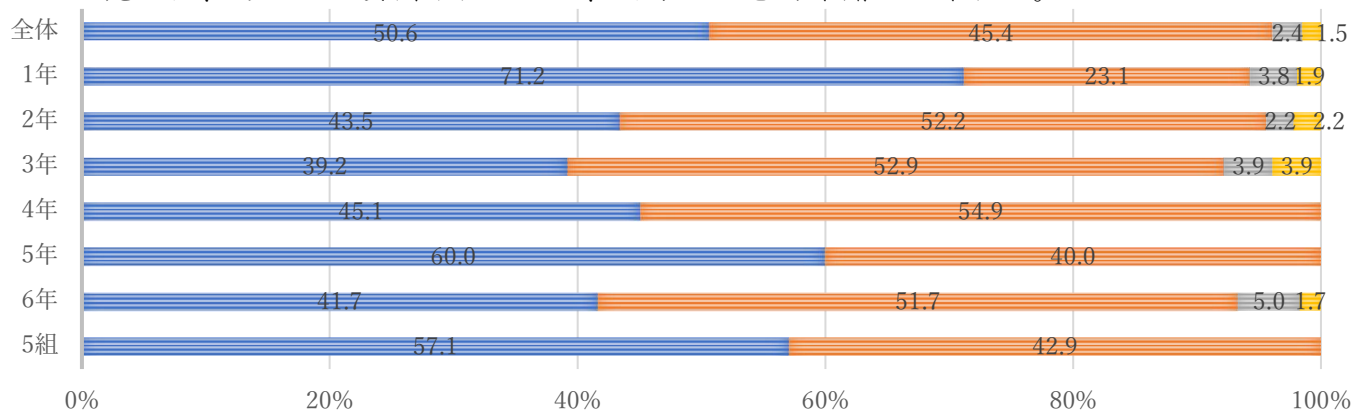
昨年度同様、肯定的回答の割合が高いことから児童のスキルの上達が窺える。今後も、学習内容の理解を深めるため、授業や係活動等での効果的な活用をできるよう指導を継続していく。あわせて、情報リテラシーや使用に関するリールの指導も行っていく。

1 4 自分の意見や考え等をクラスや学年、学校に発信することができるようになってきた。



昨年度と大きな変化のない結果となっている。概ねどの学年も肯定的回答が90%近いことから、得手不得手はあるものの、自分の考えを発信しようとしてできるようになってきていると推測できる。一方、否定的回答も10%近くあることから、学年や個の成長及び実態に合わせた情報発信の方法等を、教職員側も工夫して指導していかなければならないと考える。

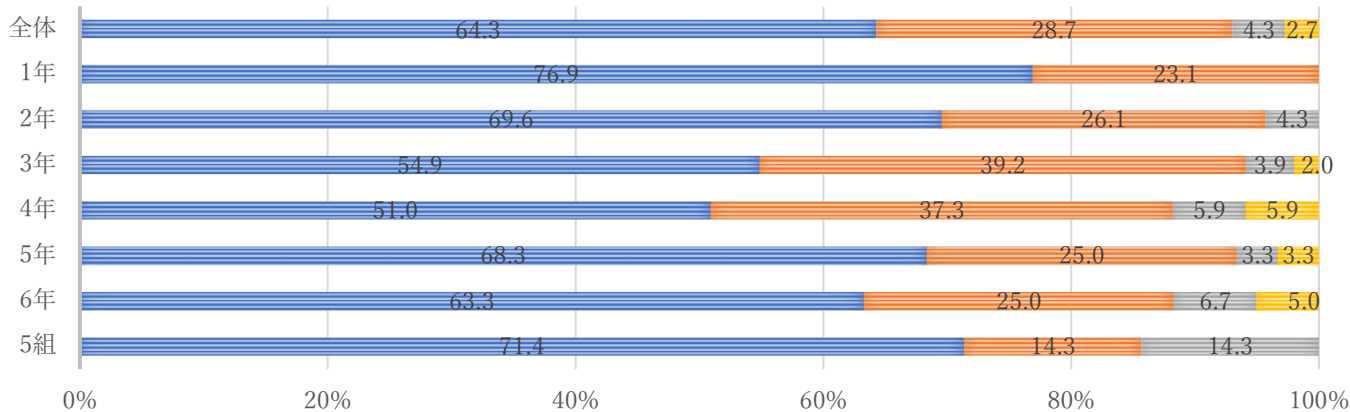
1 5 先生は、あなたの質問や悩みごと、自分の話をよく聞いてくれる。



どの学年も肯定的回答が95%近くあり、日々教職員が児童の話をしっかり聞いて対応をしていると考えられる。否定的回答をしている児童も一定数いることから、今まで同様、相談しやすい環境作りや児童との信頼関係の構築は必要不可欠である。

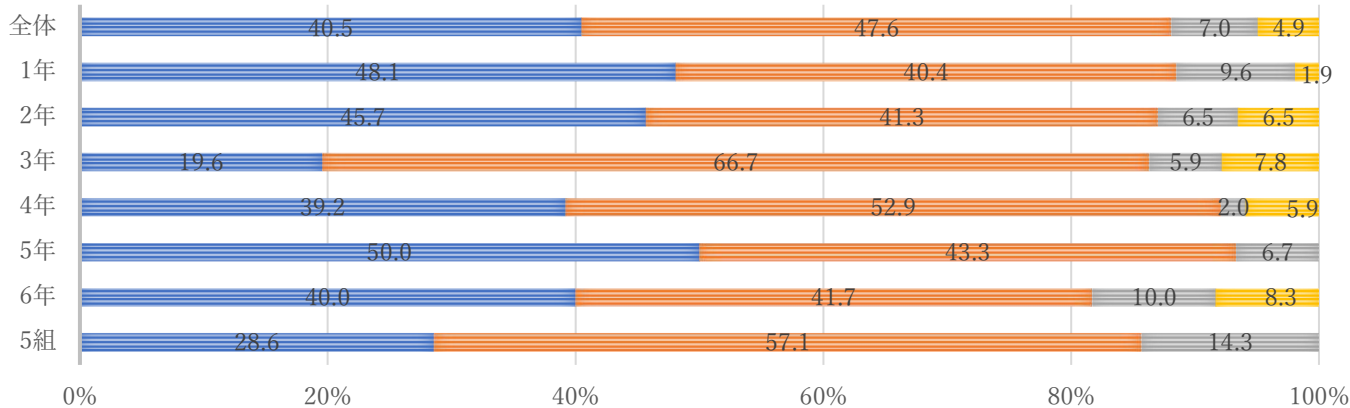


16 将来の夢がある。



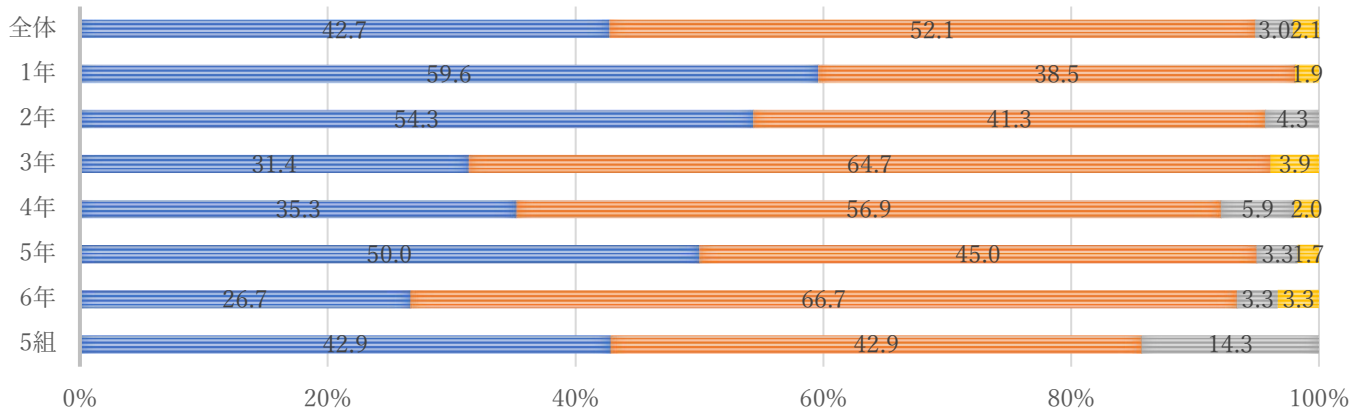
大半の児童が肯定的回答をしていることから、漠然としている部分もあるが、自身の将来について考えをもって過ごすことができていると考えられる。一方、昨年度同様、「まだ決まっていない」「わからない/考えられない」といった理由で否定的回答をしている児童も一定数いる。高学年に限らず、学校生活の中で将来の夢につながるような取組やキャリア教育のより一層の推進を進めていく。

17 世界や外国について興味が出てきた。



学年別に見ると、昨年度よりも肯定的回答が概ね増加している。学年やクラスで、児童の実態に合わせた取組が功を奏したといえる。否定的回答の中には、「世界/外国に興味がない」や「日本がいい」、「英語が苦手」といった理由が多くみられた。児童の興味・関心が高まる取組を検討しながら活動の企画・実施を継続していく。

18 地域の人と関わりながら生活している。



昨年度と比較すると、どの学年も肯定的回答の割合が増加もしくは同水準の結果となった。昨年度から実施している「地域盛り上げ隊ミヌマーズ」の活動が、今年度も好影響をもたらしたと考えられる。